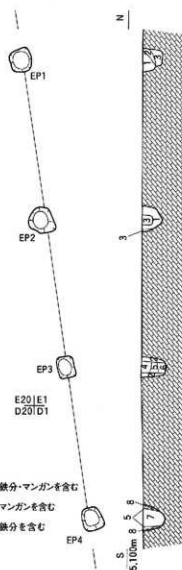


- | | | | |
|---|-------------------|-----|---------|
| 1 | オリーブ黄色 (5 Y 6/3) | シルト | |
| 2 | オリーブ黄色 (5 Y 6/3) | シルト | マンガンを含む |
| 3 | 暗灰黄色 (2.5 Y 5/2) | シルト | |
| 4 | 黄灰色 (2.5 Y 6/1) | シルト | |
| 5 | 黄褐色 (2.5 Y 5/4) | シルト | |
| 6 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/4) | シルト | マンガンを含む |
| 7 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/4) | シルト | |

0 2 m

第55図 SA2004 平断面図



- | | | | |
|---|-------------------|-----|------------|
| 1 | 灰黄色 (2.5 Y 7/2) | シルト | |
| 2 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/3) | シルト | |
| 3 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/3) | シルト | 鉄分・マンガンを含む |
| 4 | 淡黄色 (2.5 Y 7/4) | シルト | |
| 5 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/4) | シルト | マンガンを含む |
| 6 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/4) | シルト | |
| 7 | にぶい黄色 (2.5 Y 6/4) | シルト | 鉄分を含む |
| 8 | 黄褐色 (2.5 Y 5/4) | シルト | |

0 2 m

第56図 SA2005 平断面図

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できる遺物は存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期などから判断して古代の可能性が高い。

5号掘立柱建物跡 (SA2005) (第56図)

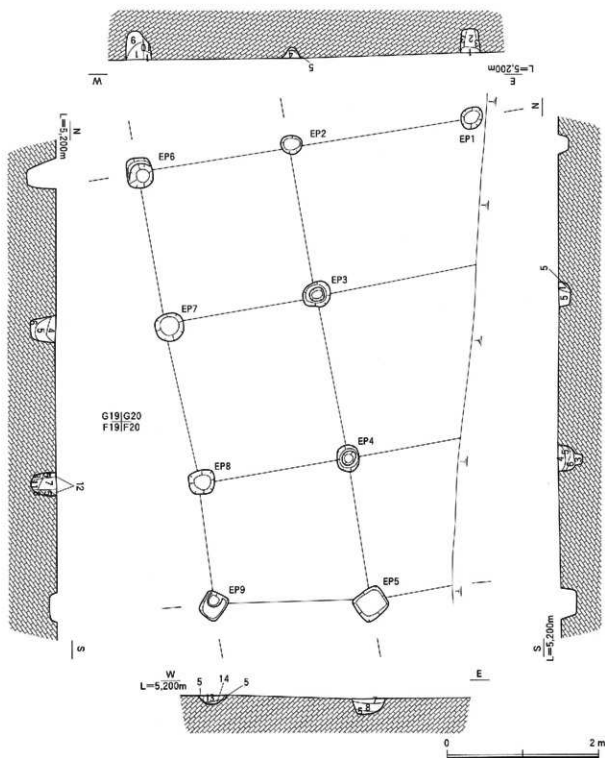
検出場所 2006年度調査3区 Loc.G1・eII・D20・E20・eIII・D1・E1グリッド

形態・規模 小穴4基で構成される構列である。主軸方向はN-8°-Wである。

土層 3~4層に分層され、根石などは検出されていない。

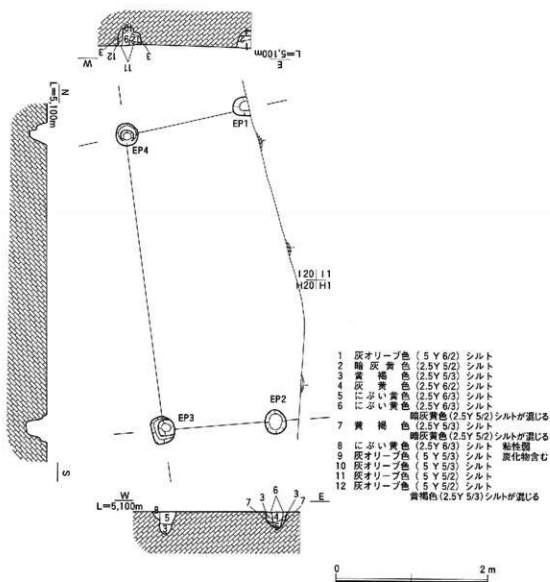
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できる遺物は存在していない。



- | | |
|----------------------------|--------------------------------------------------|
| 1 灰オリーブ色 (5 Y 6/2) シルト | 8 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) シルト |
| 2 灰オリーブ色 (5 Y 6/2) シルト 粘性強 | 9 灰オリーブ色 (5 Y 5/3) シルト |
| 3 灰 黄色 (2.5Y 6/2) シルト | 10 灰オリーブ色 (5 Y 5/3) シルト 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルトが混じる |
| 4 にぶい黄色 (2.5Y 6/3) シルト | 11 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) シルト 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルトが混じる |
| 5 黄 褐色 (2.5Y 5/3) シルト | 12 黄 褐色 (2.5Y 5/3) シルト 粘性強い |
| 6 黄 褐色 (2.5Y 5/3) シルト | 13 黄 褐色 (2.5Y 5/3) シルト |
| 7 暗 灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト | 14 暗 灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルトが混じる |

第57図 SA2006 平面断面図



第58図 SA2007 平面図

時期 同一遺構面にある遺構の時期などから判断して古代の可能性が高い。

6号掘立柱建物跡 (SA2006) (第57図)

検出場所 2003年度調査4-3区 Loc.G1・εII・F20・G20グリッド

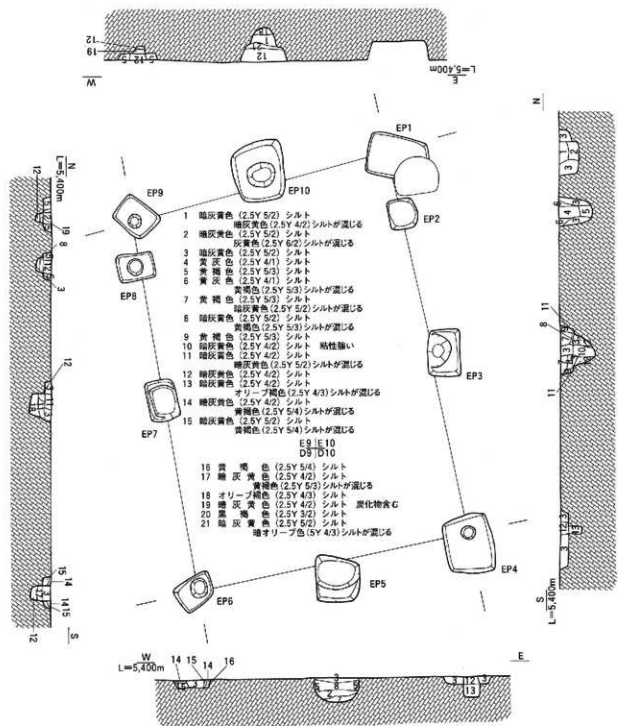
形態・規模 梁間2間(4.4m)×桁行3間(5.75m)、床面積25.3㎡の総柱建物である。建物の主軸方向はN-9°-Wである。東側は調査区の外に延びている。

土層 2～5層に分層され、根石などは検出されていない。

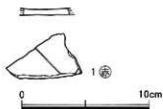
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できる遺物は存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期などから判断して古代の可能性が高い。



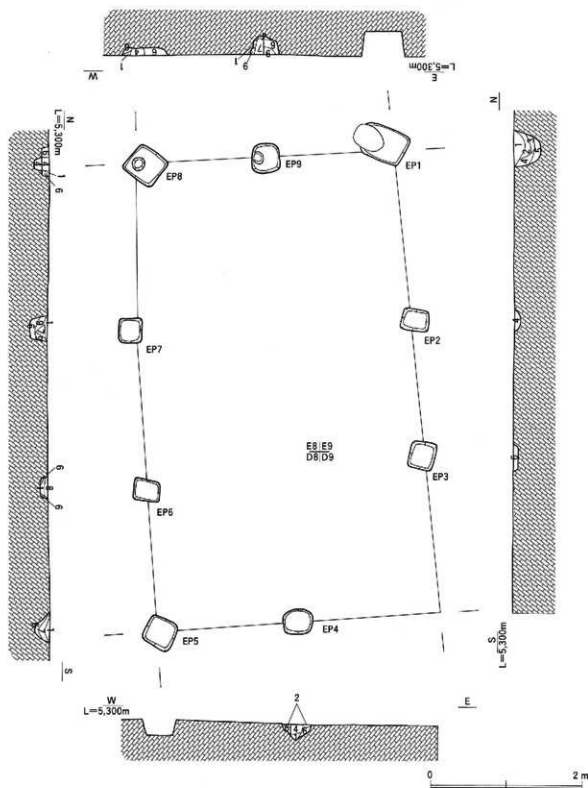
第59図 SA2008 平面図



第60図 SA2008・EP3 出土遺物



第61図 SA2008・EP6 出土遺物



- | | | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|------------------------|---------------------------|-----------------------|----------------------|-------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 1 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト | 2 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト | 3 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト | 4 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト | 5 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト | 6 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルト | 7 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト | 8 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト | 9 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルト |
| | | 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルトが混じる | オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) シルトが混じる | 粘性強い | | 暗灰黄色 (2.5Y 5/3) シルトが混じる | 黄土含む | 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルトが混じる |

第62図 SA2009 平面面図



W
L=5,200m E



- 1 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト
- 2 暗灰黄色 (2.5Y 5/2) シルト
- 3 暗灰黄色 (2.5Y 4/2) シルト 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルトが混じる
- 4 黄褐色 (2.5Y 5/3) シルト



第63図 SA2009-EP4 遺物出土状況図



第64図 SA2009-EP4 出土遺物



第65図 SA2009-EP7 出土遺物



7号掘立柱建物跡 (SA2007) (第58図)

検出場所 2003年度調査4-3区 Loc.G1・εII・H20・I20グリッド

形態・規模 梁間1間(4.0m)×桁行1間(1.8m・残存部数値)、床面積7.2㎡(残存部数値)の側柱建物である。建物の主軸方向はN-83°-Eである。東側は調査区の外に延びている。

土層 3~4層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できる遺物は存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期などから判断して古代の可能性が高い。

8号掘立柱建物跡 (SA2008) (第59~61図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D9・10・E9・10グリッド

形態・規模 梁間2間(3.9m)×桁行2間(5.0m)、床面積19.5㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-10°-Wである。EP2、EP8が左右対象位置に存在するので、北側に軒が存在する可能性が考えられる。

土層 4~8層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

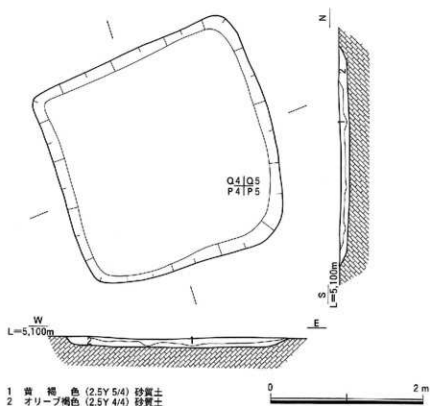
出土遺物 EP3から底部外面に刻書をもつ土師器の底部、EP6からは須恵器の甕がそれぞれ出土している。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

9号掘立柱建物跡 (SA2009) (第62~65図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D8・9・E8・9グリッド

形態・規模 梁間2間(3.35m)×桁行3間(6.25m)、床面積20.9㎡の側柱建物である。建物の主軸



第66図 SK2006 平断面図

方向は $N-4^{\circ}-W$ である。

土層 3～6層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 EP4 検出面上面より土器が出土している。

出土遺物 EP4 からは土師器の皿、EP7 からは須恵器の杯と土師器の皿がそれぞれ出土している。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

③ 土坑

6号土坑 (SK2006) (第66図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・P4・5・Q4・5グリッド

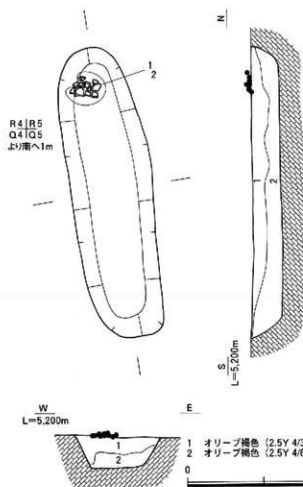
形態・規模 長軸2.98m、短軸2.80m、深さ0.12mを測り、平面形状はほぼ方形を呈する。断面形状は皿形である。

土層 2層に分層される。

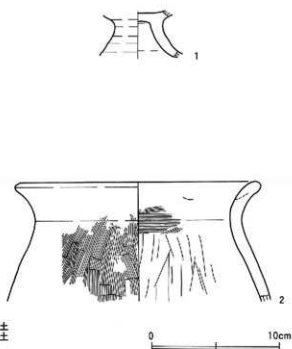
遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できる遺物は存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期などから判断して古代の可能性が高い。



第67図 SK2007 平面断面図



第68図 SK2007 出土遺物

7号土坑 (SK2007) (第67・68図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・Q5グリッド

形態・規模 長軸1.90m、短軸0.52m、深さ0.21mを測り、平面形状は長楕円形を呈する。断面形状は逆台形である。

土層 2層に分層される。

遺物出土状況 北端の検出面上面より土器がまとめて出土している。

出土遺物 1は土師器の高杯、2は土師器の臺である。

時期 出土した遺物から古墳時代後期と考えられる。

8号土坑 (SK2008) (第69～71図)

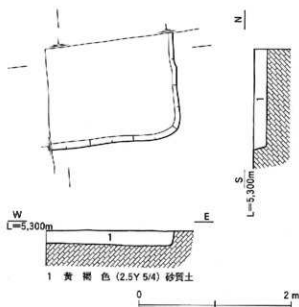
検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・S3・4グリッド

形態・規模 長軸1.75m、短軸1.35m、深さ0.20mを測り、平面形状は長方形を呈する。北及び西側は調査区外に延びている。断面形状は皿形である。

土層 1層に分層される。

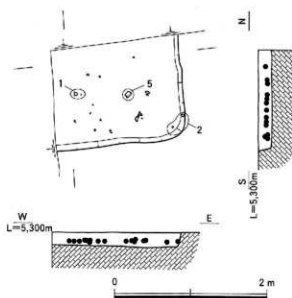
遺物出土状況 床面よりやや上部から土器が出土している。

T3 | T4
S3 | S4

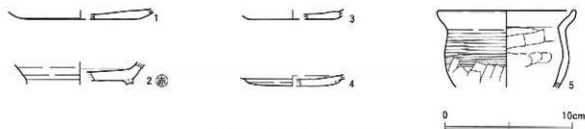


第69図 SK2008 平断面図

T3 | T4
S3 | S4



第70図 SK2008 遺物出土状況図



第71図 SK2008 出土遺物

出土遺物 1、2は土師器の杯である。3、4は土師器の小皿である。5は土師器の壺である。
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

9号土坑 (SK2009) (第72・73図)

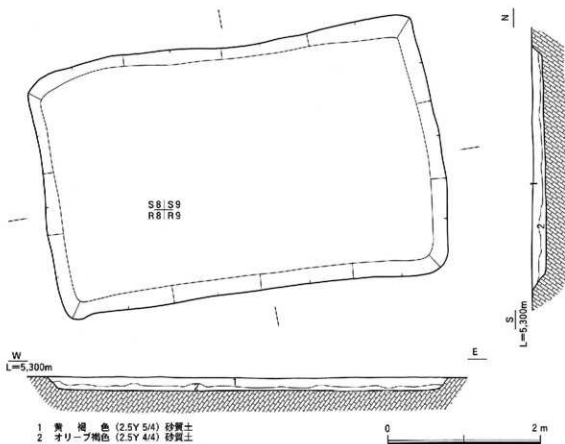
検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・R8・9・S8・9グリッド

形態・規模 長軸5.18m、短軸3.30m、深さ0.18mを測り、平面形状は長方形を呈する。断面形状は皿形である。

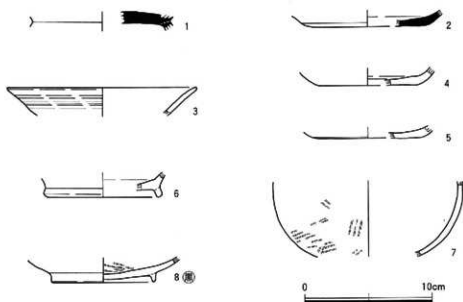
土層 2層に分層される。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

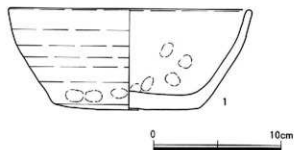
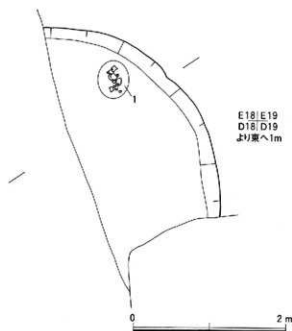
出土遺物 1、2は須恵器の杯である。3～6は土師器の杯である。7は土師器の壺である。8は黒色土器の碗である。



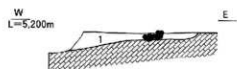
第72図 SK2009 平断面図



第73図 SK2009 出土遺物



第75図 SK2016 出土遺物



1 にぶい黄色 (2.5Y 6/3) シルト

第74図 SK2016 平断面図

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

16号土坑 (SK2016) (第74・75図)

検出場所 2003年度調査4-4区 Loc.G1・eII・D18・E18グリッド

形態・規模 長軸3.60m、短軸1.70m、深さ0.20mを測り、平面形状は楕円形を呈するとみられる。南側と西側をそれぞれ切られている。断面形状は皿形である。

土層 1層に分層される。

遺物出土状況 北側の床面より土器が出土している。

出土遺物 1は土師器の杯である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

20号土坑 (SK2020) (第76～79図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D10・11グリッド

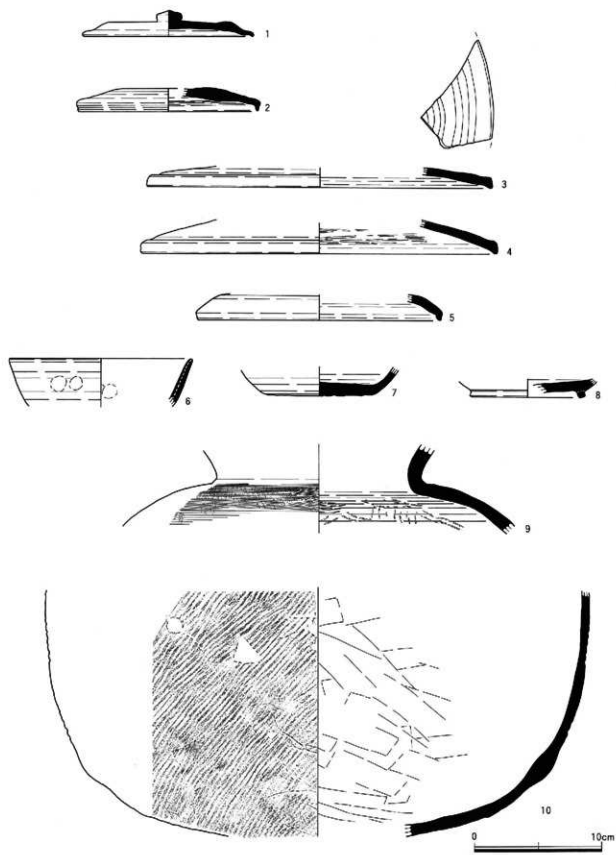
形態・規模 長軸2.88m、短軸2.75m、深さ0.10mを測り、平面形状はやや不整形な楕円を呈するとみられる。南側を切られている。断面形状は皿形である。

土層 2層に分層される。

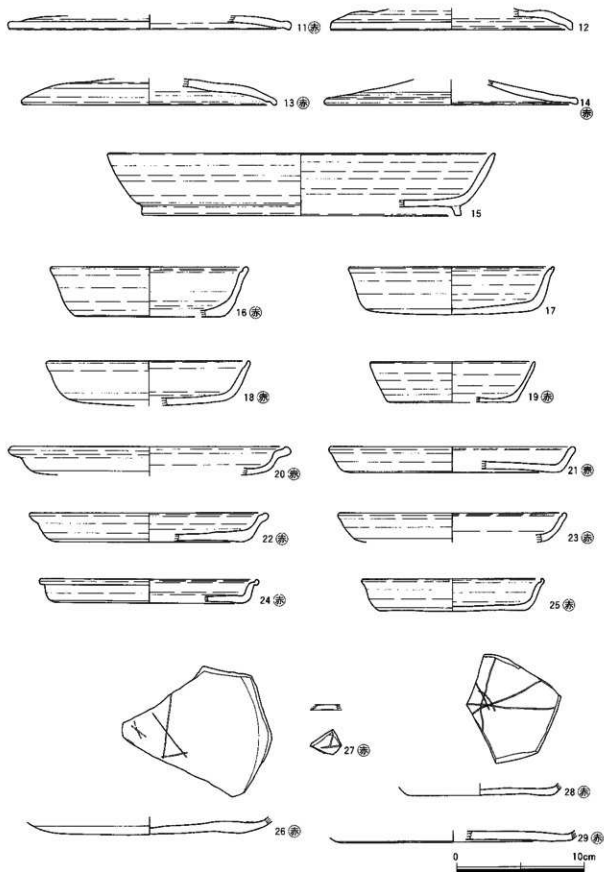
遺物出土状況 遺構埋土中のほぼ全体に広がるように遺物が出土している。



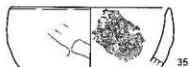
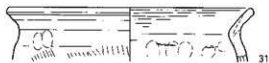
第76図 SK2020 平断面図



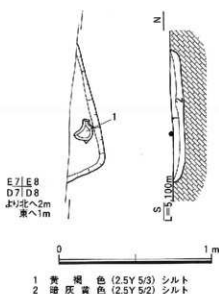
第77図 SK2020 出土遺物(1)



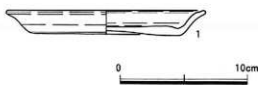
第78図 SK2020 出土遺物(2)



第79図 SK2020 出土遺物(3)



第80図 SK2022 平断面図



第81図 SK2022 出土遺物

出土遺物 1～5は須恵器の蓋である。6～8は須恵器の杯である。9、10は須恵器の甕である。11～14は土師器の蓋である。15～19は土師器の杯である。20～29は土師器の皿である。そのうち26～28は底部外面に刻書をもつ。30、31は土師器の甕である。32～37は製塩土器である。38は鉄製の刀子である。
 時期 出土した遺物から奈良時代と考えられる。

22号土坑 (SK2022) (第80・81図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・E8グリッド

形態・規模 長軸0.83m、短軸0.26m、深さ0.09mを測り、平面形状は長方形を呈するとみられるが、西側を切られている。断面形状は皿形である。

土層 2層に分層される。

遺物出土状況 遺構検出面の上面から土器が出土している。

出土遺物 1は土師器の皿である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

④ 土墳墓

1号土墳墓 (ST2001) (第82・83図)

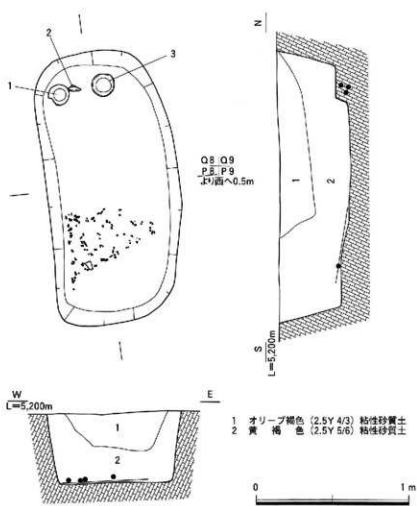
検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βIII・P8・Q8グリッド

形態・規模 長軸1.78m、短軸0.90m、深さ0.46mを測り、平面形状は隅丸長方形を呈する。断面形状は逆台形である。主軸の方位はN-20°-Wである。

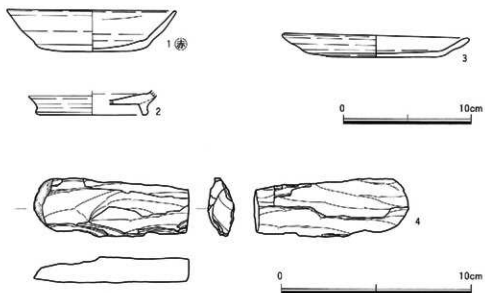
土層 2層に分層される。

遺物出土状況 骨は検出されていない。遺構の北端の床面より土器が出土している。また南半部の床面からは炭化物が集中して検出されている。

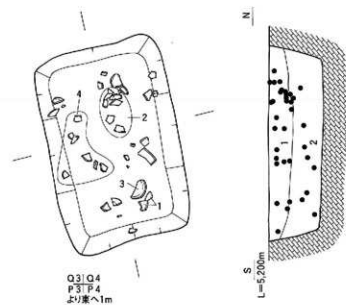
出土遺物 1、2は土師器の杯である。3は土師器の皿である。4は泥質片岩の石核である。



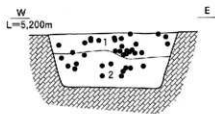
第82図 ST2001 平面図



第83図 ST2001 出土遺物



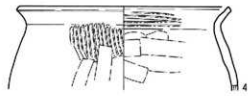
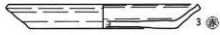
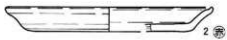
Q3/Q4
P3/P4
より深へ1m



1 黄 褐色 (2.5Y 5/4) 砂質土
2 黄 褐色 (2.5Y 5/6) 砂質土



第84図 ST2003 平面図



第85図 ST2003 出土遺物

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

3号土墳墓 (ST2003) (第84・85図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・Q4グリッド

形態・規模 長軸1.28m、短軸0.84m、深さ0.38mを測り、平面形状は長方形を呈する。断面形状は逆台形である。主軸の方位はN-20°-Wである。

土層 2層に分層される。

遺物出土状況 1層および2層の上半部を中心として遺構全体から遺物が出土している。

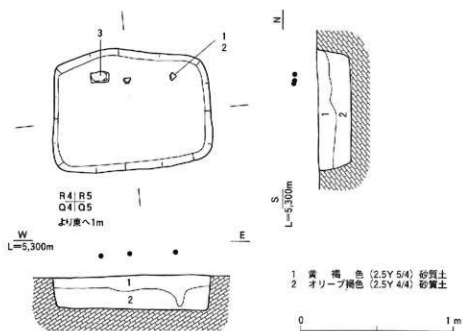
出土遺物 1は須恵器の杯である。2、2は土師器の皿である。4は土師器の壺である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

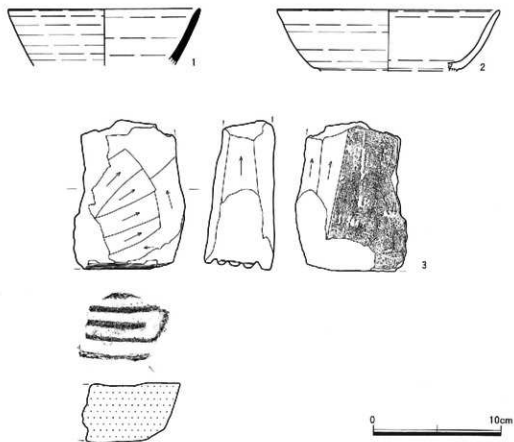
4号土墳墓 (ST2004) (第86・87図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・R5グリッド

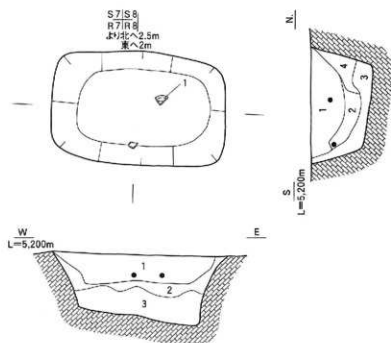
形態・規模 長軸1.04m、短軸0.78m、深さ0.24mを測り、平面形状は長方形を呈する。断面形状は逆



第86図 ST2004 平面図



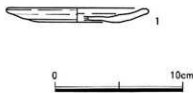
第87図 ST2004 出土遺物



- 1 黄褐色 (2.5Y 5/3) 砂質土
- 2 黄褐色 (2.5Y 5/4) 砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土



第88図 ST2007 平断面図



第89図 ST2007 出土遺物

台形である。主軸の方位は $N-80^{\circ}-W$ である。

土層 2層に分層される。

遺物出土状況 遺構検出面よりやや上方から遺物が出土している。

出土遺物 1は須恵器の杯である。2は土師器の杯である。3は重圓文軒平瓦である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

7号土壌墓 (ST2007) (第88・89図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・S8グリッド

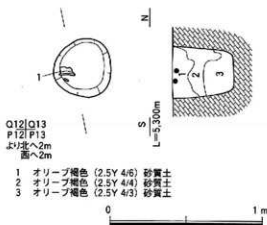
形態・規模 長軸1.14m、短軸0.76m、深さ0.46mを測り、平面形状は長方形を呈する。断面形状は逆台形である。主軸の方位は $N-80^{\circ}-W$ である。

土層 3層に分層される。

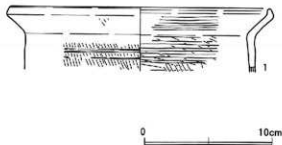
遺物出土状況 遺構の中央部付近の埋土中より土器が出土している。

出土遺物 1は土師器の小皿である。

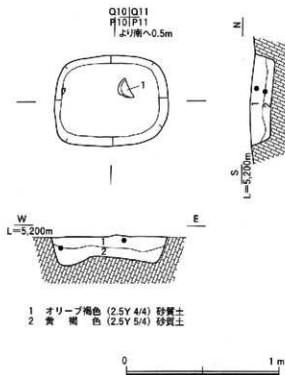
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。



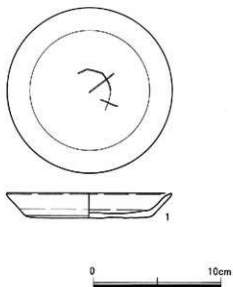
第90図 SP2002 平面図



第91図 SP2002 出土遺物



第92図 SP2008 平面図



第93図 SP2008 出土遺物

⑤ 小穴

2号小穴 (SP2002) (第90・91図)

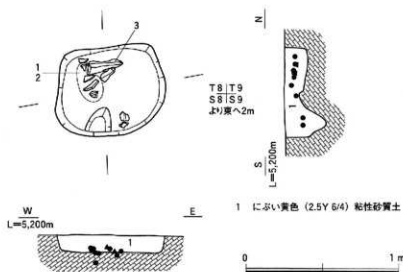
検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・Q12グリッド

形態・規模 長軸0.40m、短軸0.35m、深さ0.40mを測り、平面形状は円形を呈する。

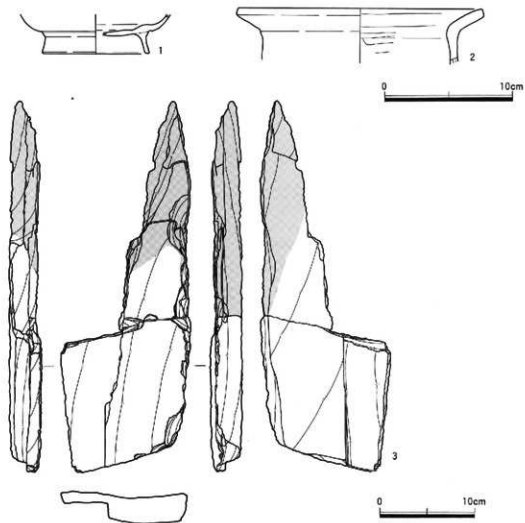
土層 3層に分層される。

遺物出土状況 遺構検出面上面より土器が出土している。

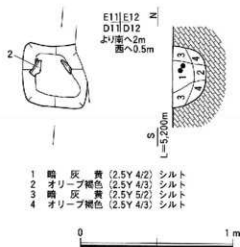
出土遺物 1は土師器の壺である。



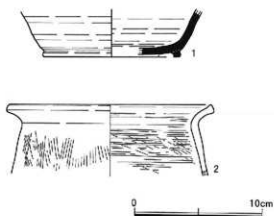
第94図 SP2046 平断面図



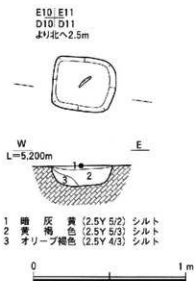
第95図 SP2046 出土遺物



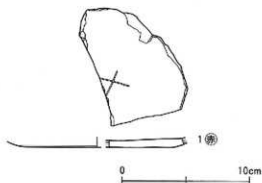
第96図 SP2087 平面図



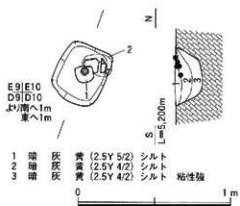
第97図 SP2087 出土遺物



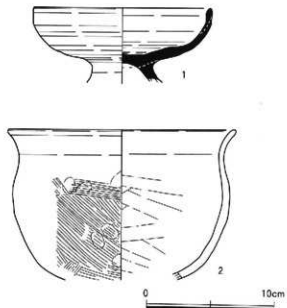
第98図 SP2097 平面図



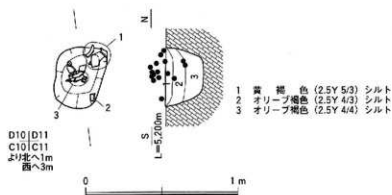
第99図 SP2097 出土遺物



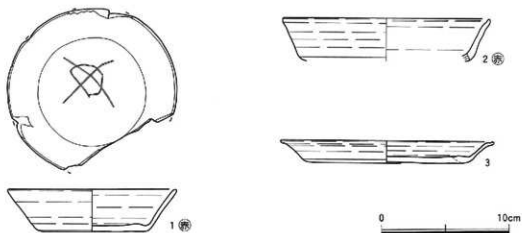
第100図 SP2110 平面図



第101図 SP2110 出土遺物



第102図 SP2113 平面断面図



第103図 SP2113 出土遺物

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

8号小穴 (SP2008) (第92・93図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・P10・11グリッド

形態・規模 長軸0.75m、短軸0.60m、深さ0.16mを測り、平面形状は隅丸長方形を呈する。

土層 2層に分層される。

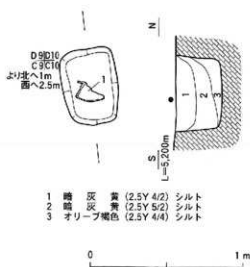
遺物出土状況 1層を中心として土器が出土している。

出土遺物 1は土師器の皿である。底部内面に刻書をもつ。

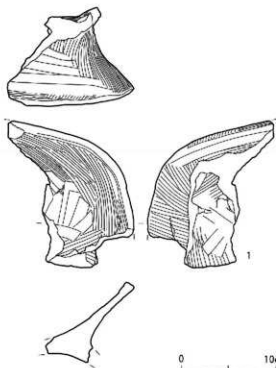
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

46号小穴 (SP2046) (第94・95図)

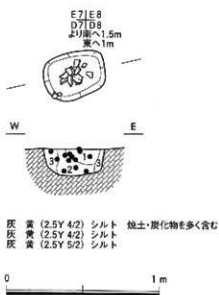
検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・S9・T9グリッド



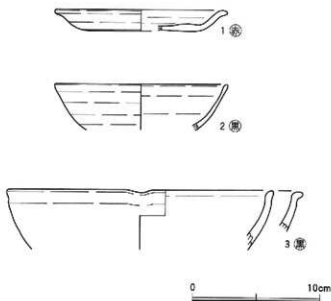
第104図 SP2127 平面断面図



第105図 SP2127 出土遺物



第106図 SP2148 平面断面図



第107図 SP2148 出土遺物

形態・規模 長軸0.72m、短軸0.58m、深さ0.26mを測り、平面形状はやや不整な楕円形を呈する。
土層 1層に分層される。

遺物出土状況 床面を中心に遺物が検出されている。

出土遺物 1は土師器の杯である。2は土師器の甕である。3は砂質片岩の剥片で、一部被熱している。
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

87号小穴 (SP2087) (第96・97図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D11グリッド
形態・規模 長軸0.50m、短軸0.46m、深さ0.22mを測り、平面形状は方形を呈する。
土層 4層に分層される。
遺物出土状況 1層中より遺物が出土している。
出土遺物 1は須恵器の杯である。2は土師器の甕である。
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

97号小穴 (SP2097) (第98・99図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・E11グリッド
形態・規模 長軸0.46m、短軸0.39m、深さ0.14mを測り、平面形状は方形を呈する。
土層 3層に分層される。
遺物出土状況 遺構検出面上面から土器が出土している。
出土遺物 1は土師器の皿である。底部内面に刻書をもつ。
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

110号小穴 (SP2110) (第100・101図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D10グリッド
形態・規模 長軸0.42m、短軸0.38m、深さ0.18mを測り、平面形状は方形を呈する。
土層 3層に分層される。
遺物出土状況 遺構検出面上面から土器が出土している。
出土遺物 1は須恵器の高杯である。2は土師器の甕である。
時期 出土した遺物から古墳時代後期と考えられる。

113号小穴 (SP2113) (第102・103図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D10グリッド
形態・規模 長軸0.42m、短軸0.34m、深さ0.26mを測り、平面形状は長方形を呈する。
土層 3層に分層される。
遺物出土状況 遺構検出面上面から3層上面にかけて土器が出土している。
出土遺物 1、2は土師器の杯である。1は底部内面に刻書をもつ。3は土師器の皿である。
時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

127号小穴 (SP2127) (第104・105図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D9グリッド
形態・規模 長軸0.54m、短軸0.42m、深さ0.30mを測り、平面形状は長方形を呈する。

土層 3層に分層される。

遺物出土状況 遺構検出面上面から遺物が出土している。

出土遺物 1は意である。

時期 出土した遺物から古代と考えられる。

148号小穴 (SP2148) (第106・107図)

検出場所 2003年度調査3-3区 Loc.G1・γII・D8グリッド

形態・規模 長軸0.42m、短軸0.32m、深さ0.17mを測り、平面形状は長方形を呈する。

土層 3層に分層される。

遺物出土状況 遺構内中央部を中心に遺物が検出されている。

出土遺物 1は土師器の杯である。2は土師器の皿である。3は土師器の片口鉢である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

⑥ 溝

2号溝 (SD2002) (第108・109図)

検出場所 1999年度調査3区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は38.55m、幅は5.10m、深さ0.53mを測る。調査区の南端では幾筋にも分流している。断面形状からも幅の広い部分でも2ないしはそれ以上の分流の跡が認められる。

土層 9層に分層される。

遺物出土状況 図化可能なものはない。

出土遺物 1は土錘である。

時期 周辺の遺構の年代などから古代以降と考えられる。

24号溝 (SD2024) (第110・111図)

検出場所 2006年度調査2区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は25.05m、幅は0.65m、深さは0.14mを測る。断面形状は丸底である。

土層 1層である。

遺物出土状況 図化可能なものはない。

出土遺物 1は土師器の壺である。

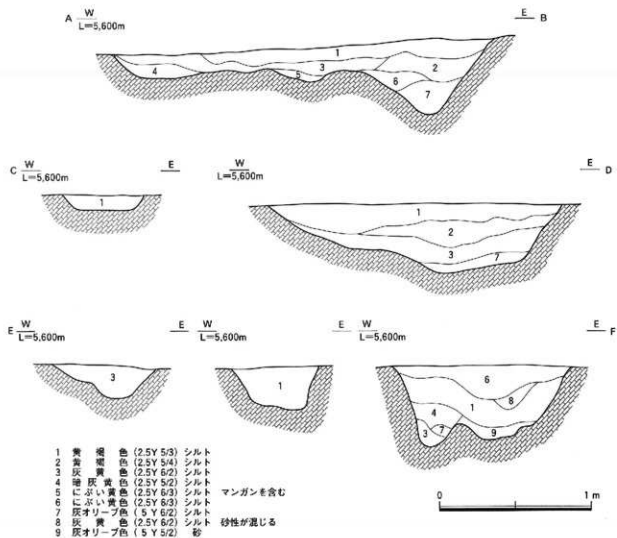
時期 出土遺物から古代以降と考えられる。

32号溝 (SD2032) (第112・113図)

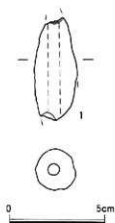
検出場所 2001年度調査5区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は34.80m、幅は0.84m、深さは0.38mを測る。断面形状はV字状や皿形である。

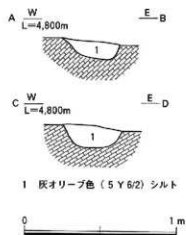
土層 5層に分層される。



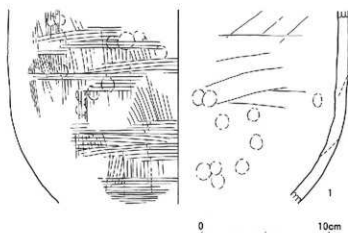
第108図 SD2002 断面図



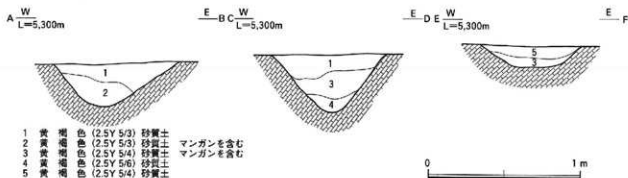
第109図 SD2002 出土遺物



第110図 SD2024 断面図



第111図 SD2024 出土遺物



第112図 SD2032 断面図



第113図 SD2032 出土遺物

遺物出土状況 図化可能なものはない。

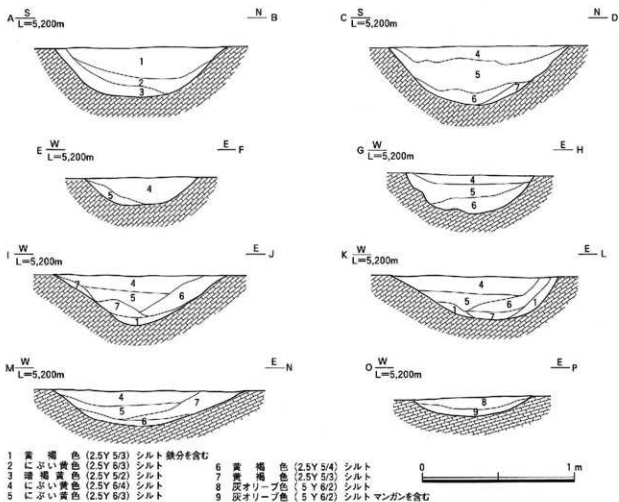
出土遺物 1は土師器の杯である。2、3は土師器の皿である。4は土師器の小皿である。

時期 出土した遺物から平安時代以降と考えられる。

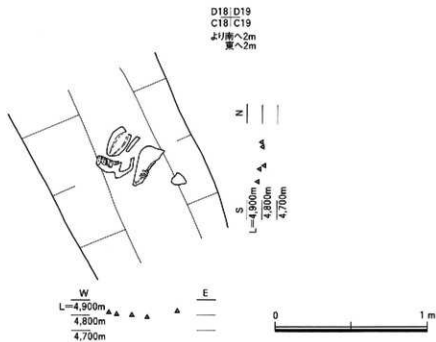
39号溝 (SD2039) (第114～117図)

検出場所 2003年度調査4-3区、4-4区

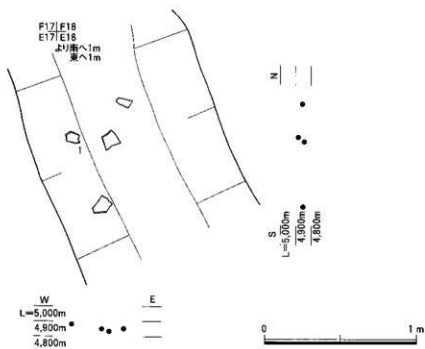
規模・断面形態 南北方向に向いており、南端は屈曲して東に延びている。残存する延長距離は39.60m、幅は1.43m、深さは0.37mを測る。断面形状は丸底である。



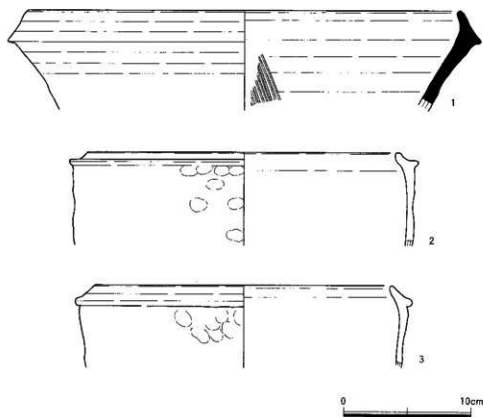
第114図 SD2039 断面図



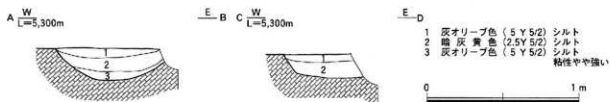
第115図 SD2039 遺物出土状況図 (1)



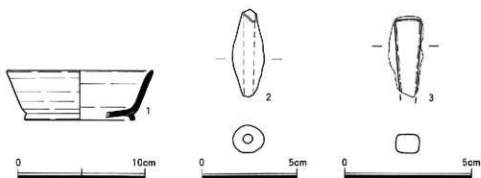
第116図 SD2039 遺物出土状況図(2)



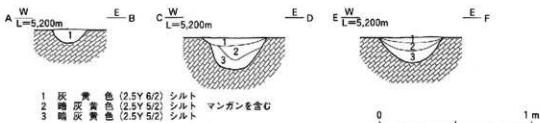
第117図 SD2039 出土遺物



第118図 SD2051 断面図

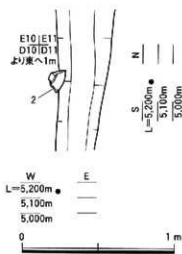


第119図 SD2051 出土遺物

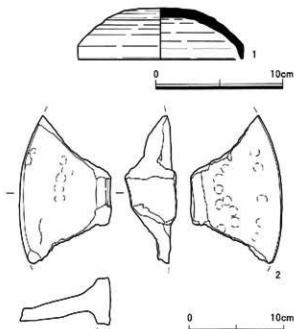


- 1 灰 黄色 (2.5Y 6/2) シルト
 2 暗 灰 黄色 (2.5Y 5/2) シルト
 3 暗 灰 黄色 (2.5Y 5/2) シルト
- マンガンを含む

第120図 SD2052 断面図

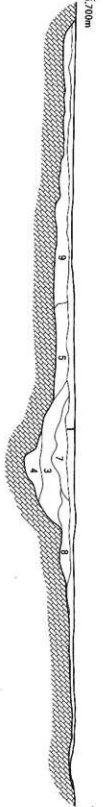


第121図 SD2052 遺物出土状況図



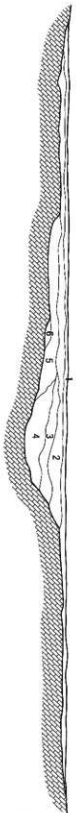
第122図 SD2052 出土遺物

A W
L=6,700m



E B

C W
L=6,700m



E D

E S
L=5,200m



N F

- 1 ナリノ黄土 (SY 63) シルト
- 2 区オノツル (SY 52) シルト
- 3 区オノツル (SY 52) シルト
- 4 区オノツル (SY 52) シルト
- 5 区オノツル (2SY 63) シルト
- 6 区オノツル (SY 52) シルト
- 7 区オノツル (SY 52) シルト
- 8 区オノツル (2SY 62) 粘質土
- 9 区オノツル (2SY 62) 粘質土
- 10 区オノツル (2SY 62) 粘質土

ナリノ黄土
区オノツル
粘質土

G W
L=5,200m



E H

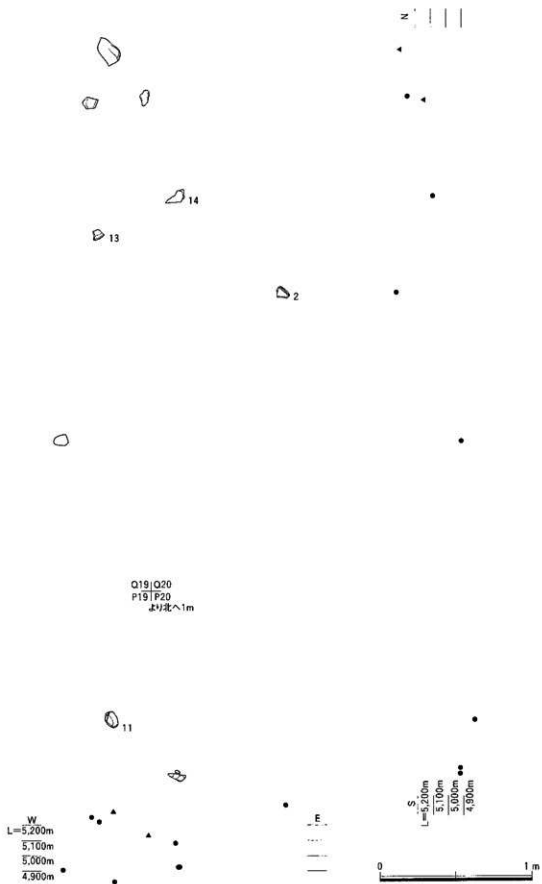
I W
L=5,200m



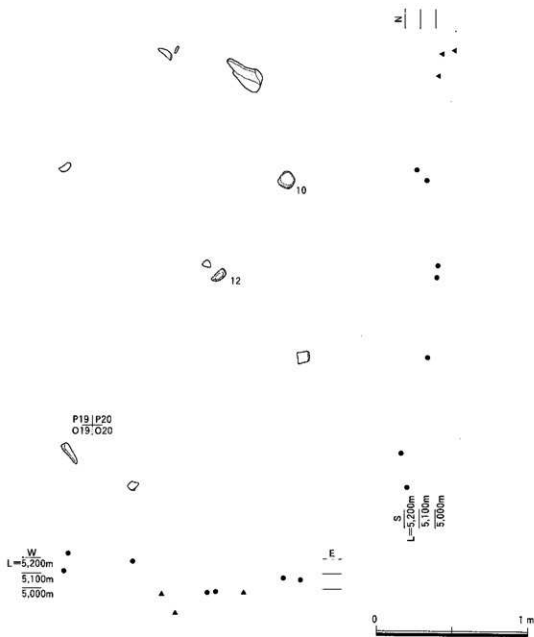
E J



第123図 SR2001 断面図



第124図 SR2001 遺物出土状況図(1)



第125図 SR2001 遺物出土状況図(2)

土層 9層に分類される。

遺物出土状況 Loc.G 1・e II C19およびE17グリッドを中心として検出された。

出土遺物 1は備前焼の插鉢である。2、3は土師器の羽釜である。

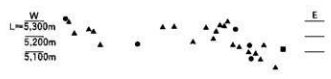
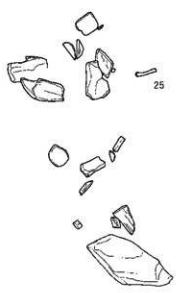
時期 出土した遺物から室町時代(15世紀頃)以降と考えられる。

51号溝 (SD2051) (第118・119図)

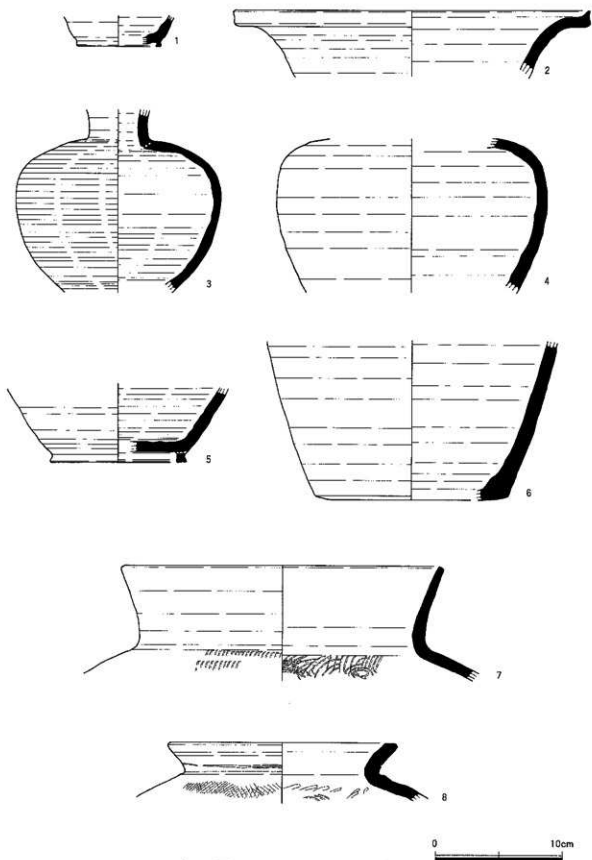
検出場所 2003年度調査3-3区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は6.45m、幅は0.76m、深さは0.19mを測

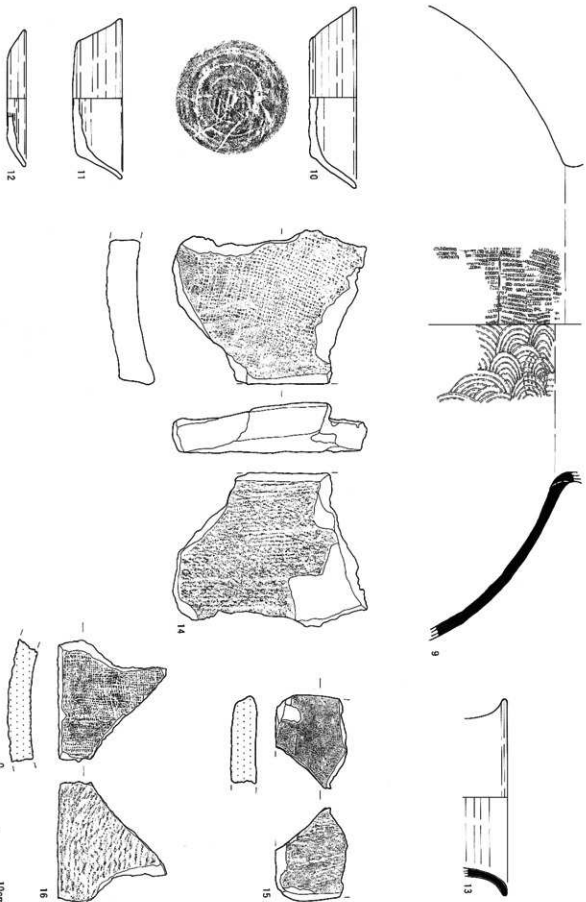
O19|O20
N19|N20



第126図 SR2001 遺物出土状況図(3)

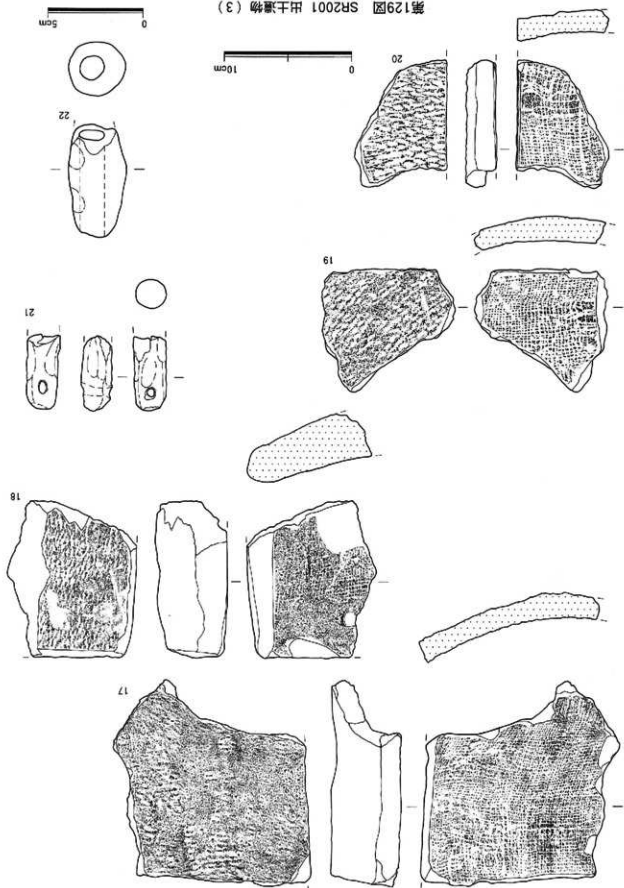


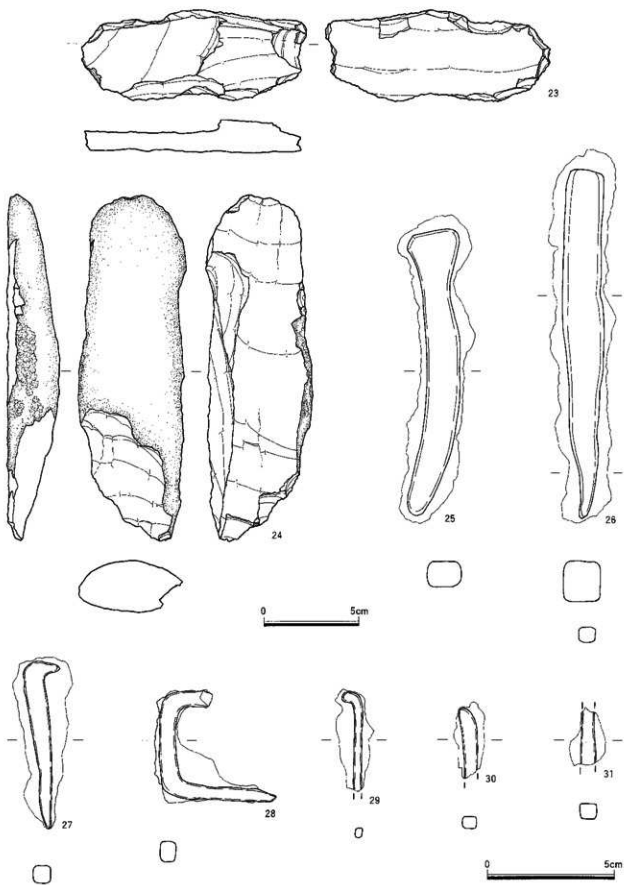
第127図 SR2001 出土遺物(1)



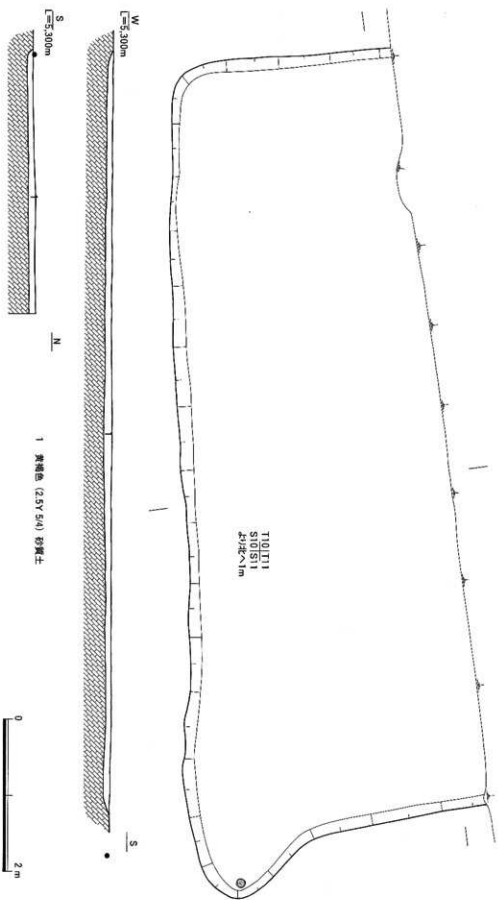
第128図 SR2001 出土遺物(2)

第129圖 SR2001 出土遺物 (3)

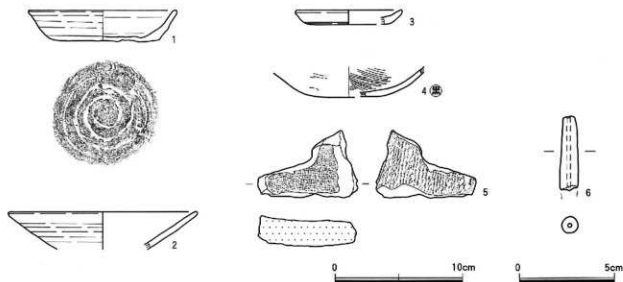




第130圖 SR2001 出土遺物 (4)



第131图 SX2001 平面断面图



第132図 SX2001 出土遺物

る。断面形状は丸底や皿形である。

土層 3層に分層される。

遺物出土状況 図化可能な遺物はない。

出土遺物 1は土鍾である。2は鉄釘である。

時期 周辺の遺構などから古代以降と考えられる。

52号溝 (SD2052) (第120～122図)

検出場所 2003年度調査3-3区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は7.50m、幅は0.48m、深さは0.20mを測る。断面形状は丸底や皿形である。

土層 3層に分層される。

遺物出土状況 Loc.G 1・γⅡ D10グリッドを中心として検出された。

出土遺物 1は須恵器の杯蓋である。2は竈である。

時期 出土した遺物から古代以降と考えられる。

⑦ 自然流路

1号自然流路 (SR2001) (第123～130図)

検出場所 1999年度調査3区

規模・断面形態 南北方向に向いており、残存する延長距離は46.95m、幅は5.00m、深さは0.65mを測る。断面形状は主に皿形である。

土層 10層に分層される。

遺物出土状況 やや散漫ではあるが、Loc.G1・αⅢN20・O19・20・P19・20グリッドを中心として検出された。

出土遺物 1～6は須恵器の甕である。7～9は須恵器の甕である。10、11は土師器の杯である。12は土師器の小皿である。13は青磁の甕である。14～20は平瓦である。21、22は土鍾である。23は砂質片岩の割片である。24は砂岩の破行である。25、26は杭状の鉄器である。27～31は鉄釘である。

時期 出土した遺物から古代以降と考えられる。

⑧ 不明遺構

1号不明遺構(SX2001)(第131・132図)

検出場所 1998年度調査8区 Loc.G1・βⅢ・S9・10・11・T9・10・11

形態・規模 長軸11.2m、短軸3.5m(残存値)、深さ0.2mを測り、断面形状は浅い皿状を呈する。

土層 1層に分層される。

遺物出土状況 検出面上面及び埋土中より遺物が検出されている。

出土遺物 1、2は土師器の杯である。3は土師器の小皿である。4は黒色土器の碗である。5は平瓦である。6は土鍾である。

時期 出土した遺物から平安時代と考えられる。

⑨ 水田の変遷(付図参照)

(a) 第1期水田

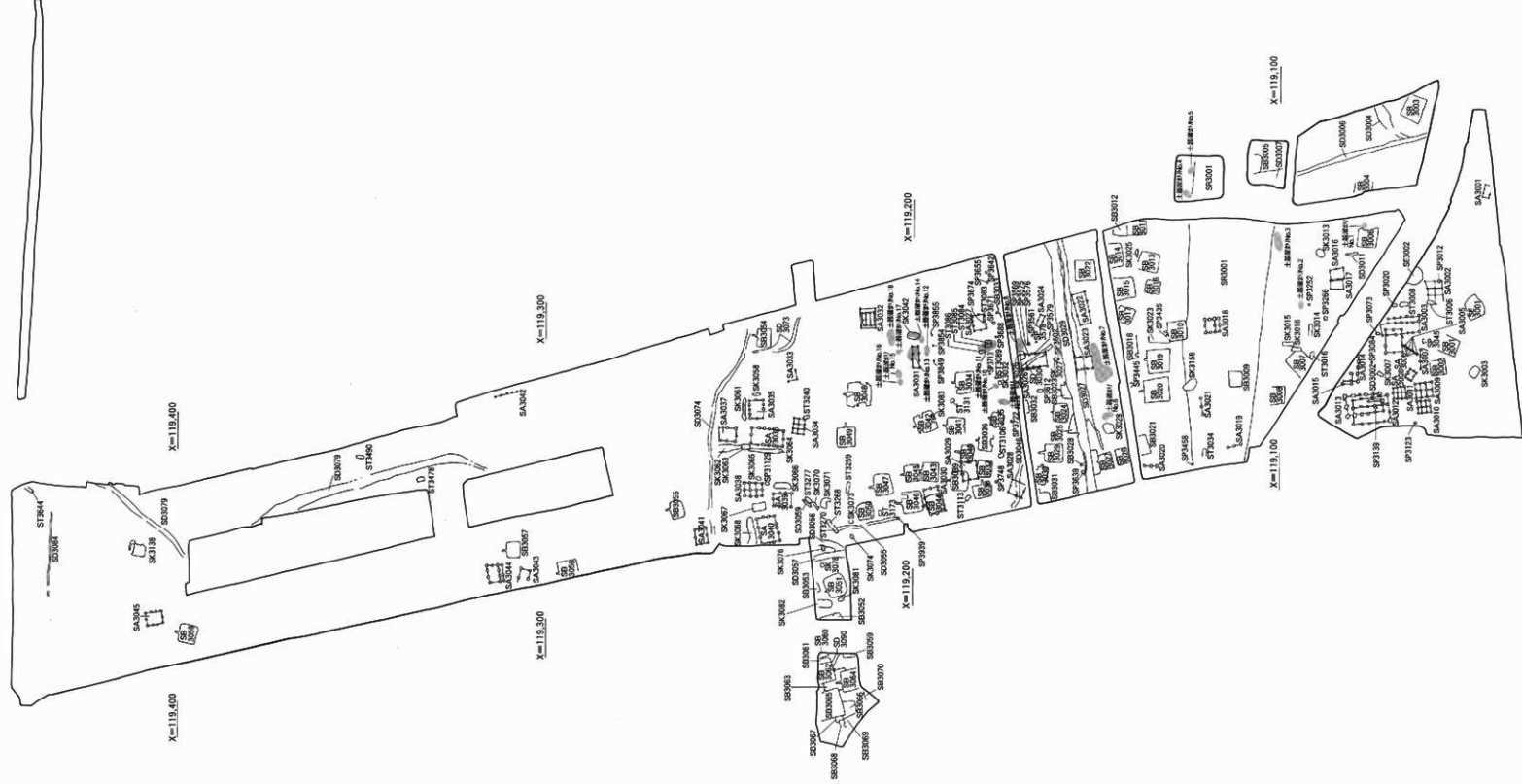
敷地遺跡において水田の経営が始まるのは古墳時代後期の集落の廃絶後の飛鳥・奈良時代(7世紀後半～8世紀)にかけてのことと考えられる。最も古い時期の水田は1999年5区から2003年4-2区、2006年2区にかけての南北約180mの範囲に造成されている。畦畔の規模は幅が約2～4mで最も広い北端では5～7mの幅を有する。水田は南側の微高地からやや一段低いところを中心に造られており、微高地からの傾斜が見られる南よりの部分では東西方向に長い長方形の区画をもち、より傾斜が緩くなった北側では南北方向に長い区画を形成している。区画の幅は長軸が60～100m、短軸では8～10mほどを測るものが多い。耕作に伴う鋤跡は区画の長軸方向に平行して残されている。水回りは南端に用水路と考えられる溝が検出されており、標高差に沿って南から北へ導水されたものと考えられる。

(b) 第2期水田

第1期に比べるとより標高の高い南側の調査区にも水田域が拡がりを見せるようになる。水田のすべてが同じ時期かどうかは確認できないが、1999年2-1・2-3区、2003年3-3区の掘立柱建物群が廃絶後に水田が造成されているため、9世紀初頭以後であることがわかる。また第1期水田よりも上層において、畦畔のほとんど検出できない大区画の水田が存在しており、その包含層中より備前焼の播鉢や土師器の羽釜などの破片が出土することなどから、9～15世紀の間に収まる可能性が高いと考えられる。北寄りの水田は第1期の水田の形を基本的には踏襲するように経営されている。畦畔の幅は水田面が上昇した分、幅が狭まっている。鋤跡は前段階を踏襲して区画の長軸に合わせた方向に残されている。水回りは第1期と同様に各水田域の南側に用水路と考えられる溝が存在するため、主に標高差に沿って南から北へ導水されたものと考えられる。

Y=89,800

Y=89,700



Y=89,800

Y=89,700

50m

第133圖 第3層構面 樓載連構配置圖

(3) 第3遺構面

① 第3遺構面の概要 (第133図・付図18～27)

第3遺構面において検出された遺構は掘立柱建物45棟、竪穴住居70棟、土坑158基、土塚墓663基、小穴1583基、溝92条、自然流路1条である。

② 掘立柱建物跡

1号掘立柱建物跡 (SA3001) (第134図)

検出場所 1999年度調査2-2区 Loc.G1・αⅢ・I16・17・J16グリッド

形態・規模 梁間1間(1.6m)×桁行3間(3.5m)、床面積5.6㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-79°-Wである。南東隅は調査区外に延びている。

土層 1層で、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

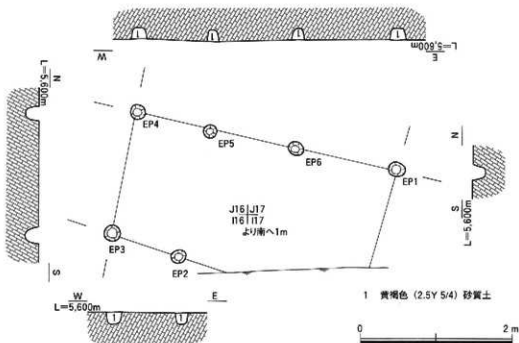
出土遺物 図示できるものは存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期から判断して古墳時代以降と考えられる。

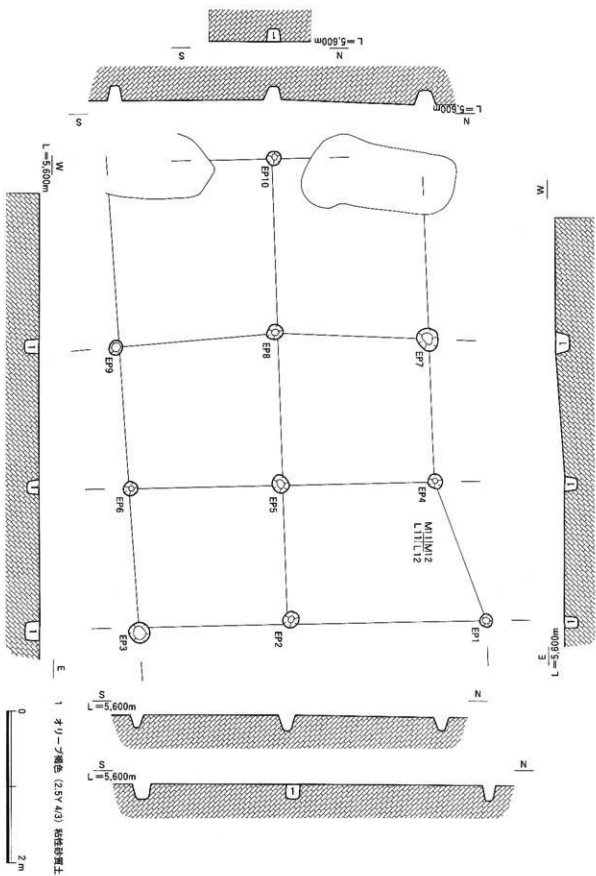
2号掘立柱建物跡 (SA3002) (第135図)

検出場所 1999年度調査2-3区 Loc.G1・αⅢ・L10・11・12・M10・11・12グリッド

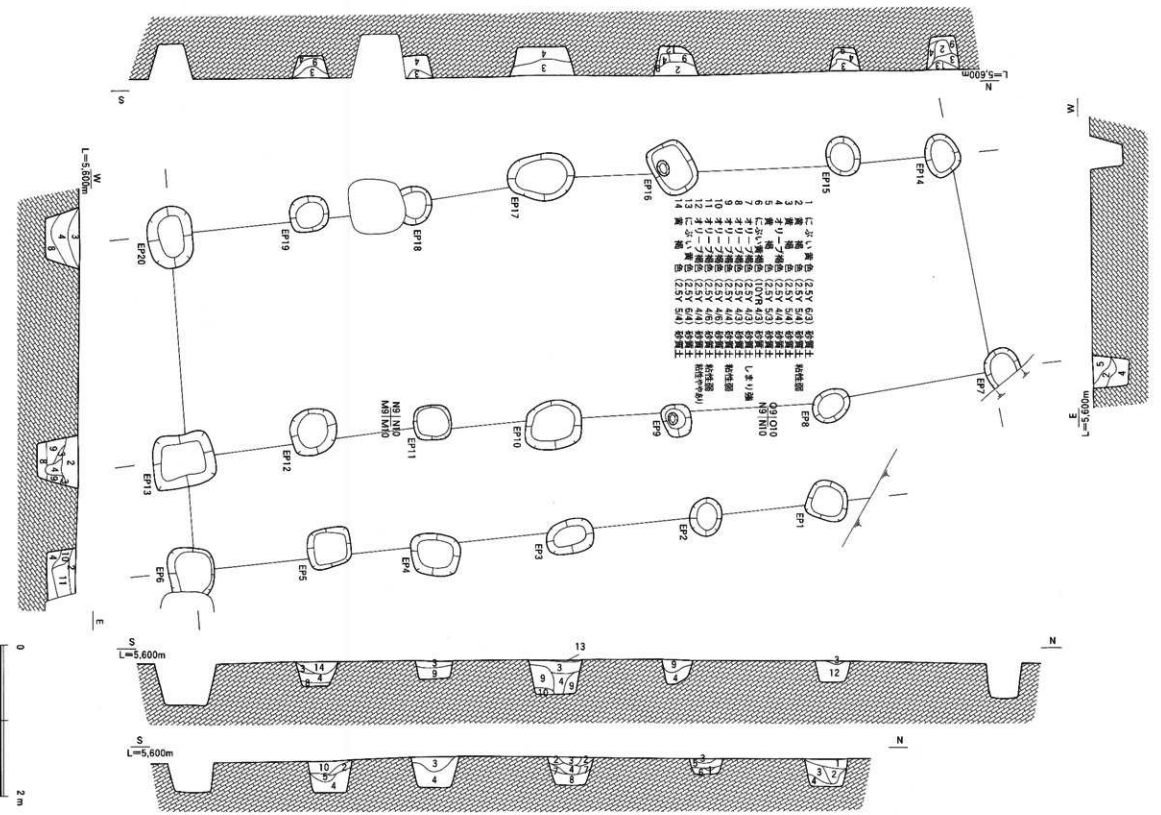
形態・規模 梁間2間(4.0m)×桁行3間(6.0m)、床面積約24㎡の総柱建物である。建物の主軸方



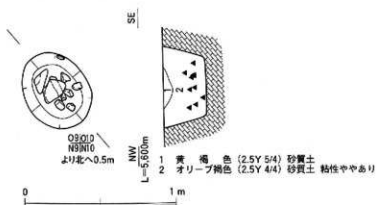
第134図 SA3001 平面図



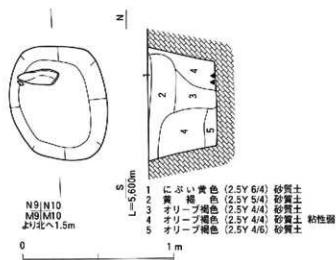
第135図 SA3002 平面図



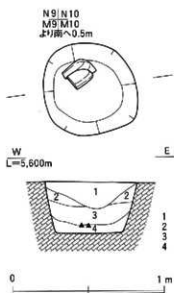
第136图 SA3003 平面剖面图



第137図 SA3003-EP8 遺物出土状況図



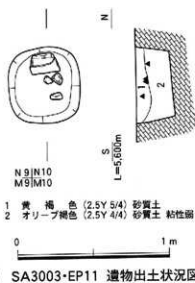
第139図 SA3003-EP10 遺物出土状況図



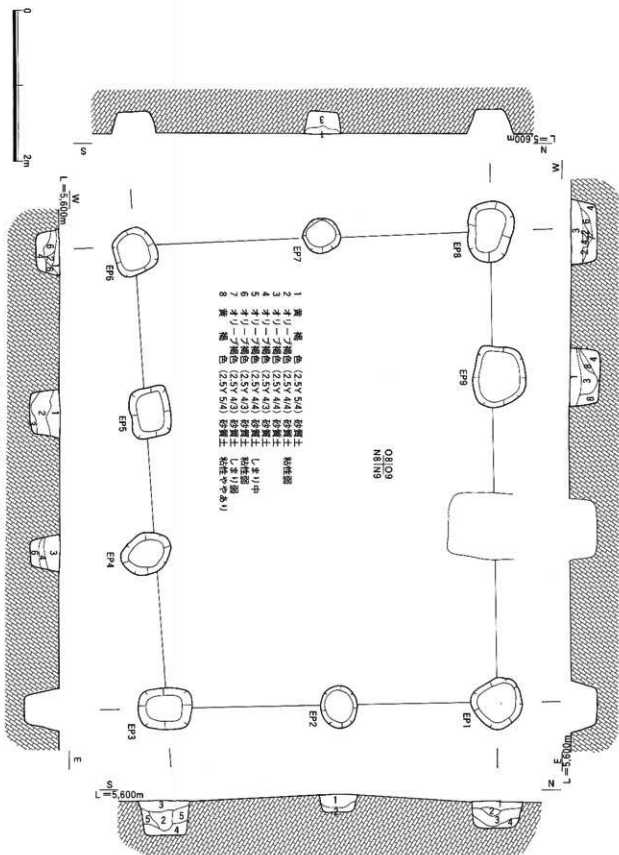
第141図 SA3003-EP12 遺物出土状況図



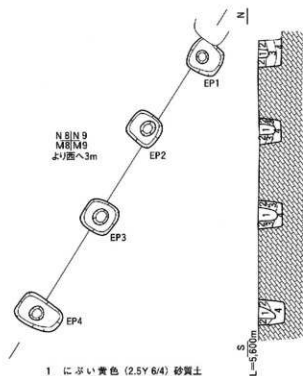
第138図 SA3003-EP9 遺物出土状況図



第140図 SA3003-EP11 遺物出土状況図



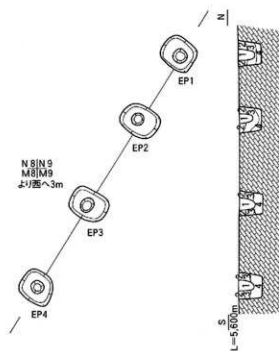
第142図 SA3004 平断面図



- 1 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
- 2 黄褐色 (2.5Y 5/4) 砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土

0 2 m

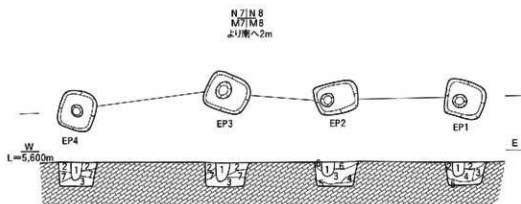
第143図 SA3005 平断面図



- 1 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
- 2 黄褐色 (2.5Y 5/4) 砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土

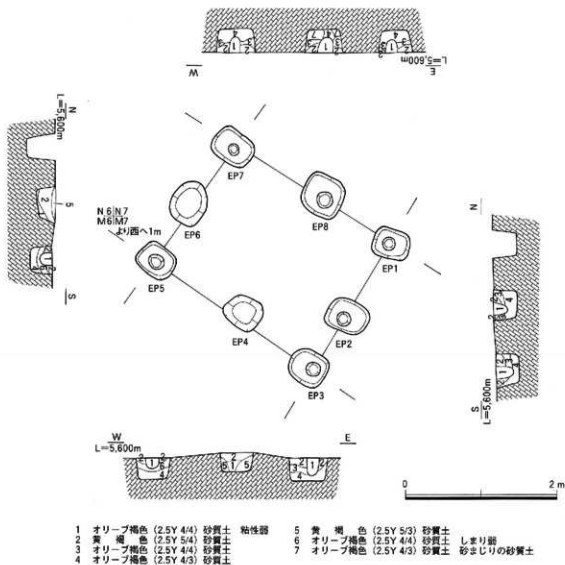
0 2 m

第144図 SA3006 平断面図



- 1 にぶい黄色 (2.5Y 6/4) 砂質土
- 2 オリーブ褐色 (2.5Y 4/6) 砂質土
- 3 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土
- 4 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土 粘性弱
- 5 オリーブ褐色 (2.5Y 4/3) 砂質土
- 6 黄褐色 (2.5Y 5/4) 砂質土
- 7 オリーブ褐色 (2.5Y 4/4) 砂質土 しまり弱

第145図 SA3007 平断面図



第146図 SA3008 平面図

向は $N-86^{\circ}-E$ である。

土層 1層で、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

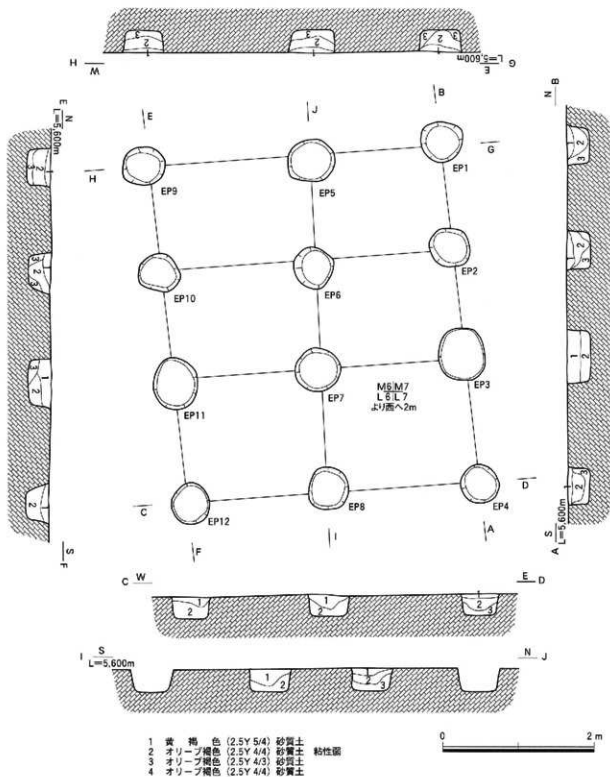
出土遺物 図示できるものは存在していない。

時期 同一遺構面にある遺構の時期から判断して古墳時代以降と考えられる。

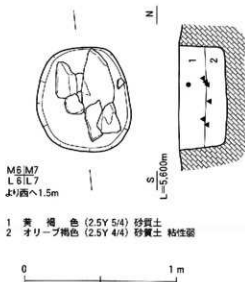
3号掘立柱建物跡 (SA3003) (第136~141図)

検出場所 1999年度調査2-3区 Loc.G1・αⅢ・M9・10・N9・10・O9・10グリッド

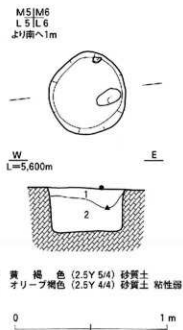
形態・規模 梁間1間 (3.0m) × 桁行6間 (10.5m)、東側に庇部分をもつ。床面積約31.5㎡の側柱建物である。建物の主軸方向は $N-5^{\circ}-W$ である。北東隅は調査区外に延びている。



第147図 SA3009 平断面図



第148図 SA3009-EP3 遺物出土状況図



第149図 SA3009-EP12 遺物出土状況図

土層 2～5層に分層され、EP8・9・10・11・12からは根石と見られる石が検出されている。
 遺物出土状況 EP8・10・12の床面およびEP9・11の上面から結晶片岩の板状剥片が検出されており、根石と考えられる。

出土遺物 図示できるものは存在していない。

時期 周囲の建物配置などから奈良時代～平安時代と考えられる。

4号掘立柱建物跡 (SA3004) (第142図)

検出場所 1999年度調査2-3区 Loc.G1・αⅢ・N8・9・O8・9グリッド

形態・規模 梁間2間(4.75m)×桁行3間(6.0m)、床面積約28.5㎡の側柱建物である。建物の主軸方向はN-86°-Eである。

土層 2～5層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できるものは存在していない。

時期 周囲の建物配置などから奈良時代～平安時代と考えられる。

5号掘立柱建物跡 (SA3005) (第143図)

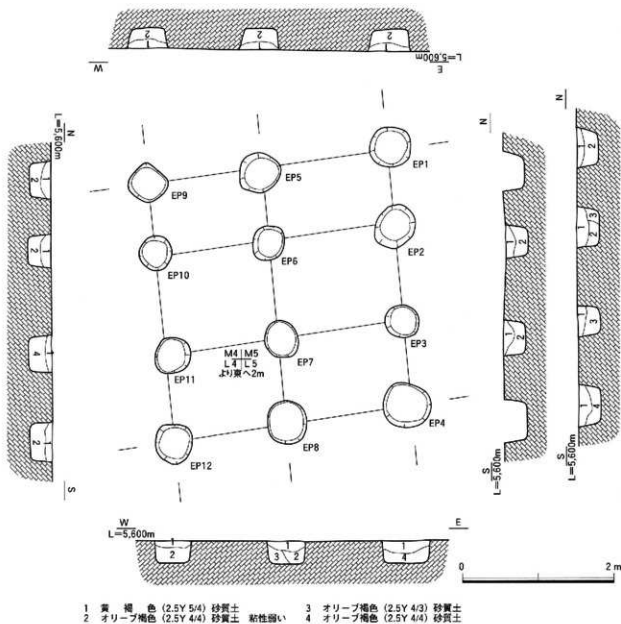
検出場所 1999年度調査2-3区 Loc.G1・αⅢ・M8・9・N8・9グリッド

形態・規模 小穴4基で構成される棚列である。主軸方向はN-32°-Eである。

土層 3～4層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できるものは存在していない。



時期 周囲の建物配置などから奈良時代～平安時代と考えられる。

6号掘立柱建物跡 (SA3006) (第144図)

検出場所 1999年度調査2-3区 Loc.G1・αⅢ・I16・17・J16グリッド

形態・規模 小穴4基で構成される横列である。主軸方向はN-32°-Eである。

土層 4層に分層され、根石などは検出されていない。

遺物出土状況 出土状況を図化できたものはない。

出土遺物 図示できるものは存在していない。

